



集められた募金は、海の救難ボランティア54,000人の  
尊い活動資金として使用されます。  
国民の皆様のご協力をお願いします。



公益社団法人 日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階

TEL:03-3222-8066 FAX:03-3222-8067

<http://www.mrj.or.jp>

E-mail V1161@mrj.or.jp



「このイベントは競艇の交付金による日本財団の助成を受けて実施します。」

# 海と共に 人と共に



公益社団法人 日本水難救済会

マリンレスキュージャパンは、(公社)日本水難救済会の愛称です。



名誉総裁  
憲仁親王妃久子殿下

高円宮妃殿下におかれましては、初代名誉総裁憲仁親王妃殿下のご遺志を受け継がれ、平成15年2月19日付けで本会の名誉総裁にご就任いただきました。

妃殿下には、在りし日の殿下とともに海に親しまれ、海の大切さ、海の厳しさについてのご造詣が深く、ボランティアで海難救助にあたる本会の役割の重要性を強くご認識いただいております。

# “ 青い海、平穏な海、豊かな海 ” を永遠に

我が国は、3,000からの島々から成り立ち、  
海岸線の総延長は、約34,000kmにも及び古来より、海から大きな恵みを受けてきた海洋国です。  
一方、海は時として私たちに厳しい試練を与えます。  
洋上で働く人々は、常に怪我や病気の不安に晒され、  
また、沿岸でのマリレジャーでも様々な海難が発生しています。  
このようななか、海を愛する心と奉仕の精神を持つボランティアの方々が自らの危険を顧みず、  
人命救助に懸命に取り組んでいます。  
日本水難救済会は、全国54,000人のボランティア救助員を支援し、その活動を支えています。  
海の恵みに感謝するとともに、安全な海を永遠にと願って...

## 沿革

- 明治22年11月3日 ● 古来「海の護り神」として広く知られる讃岐金刀比羅宮の宮司琴陵宥常氏の発起で、讃岐琴平の地で大日本帝国水難救済会発会
- 明治23年4月 ● 有栖川宮威仁親王殿下を初代総裁に推戴
- 明治29年 ● 本会事業の国家経営の建議案が貴・衆両院を通過、毎年補助金下附決定
- 明治31年11月 ● 民法の制定・施行に伴い、社団法人大日本帝国水難救済会と登記
- 明治37年3月 ● 社団法人帝国水難救済会と改称
- 大正2年8月 ● 東伏見宮依仁親王殿下を二代総裁に推戴
- 大正11年8月 ● 伏見宮博恭王殿下を三代総裁に推戴、昭和21年3月ご退任
- 大正13年 ● 昭和3年、7年、11年、50年、58年、62年、平成3年開催の国際水難救済会議に出席
- 昭和14年11月 ● 東京九段軍人会館で、本会創立50周年記念式典を挙げる
- 昭和24年4月 ● 社団法人日本水難救済会と改称
- 昭和25年7月 ● 青い羽根募金開始
- 昭和60年10月 ● 本会に洋上救急センターを設置、洋上救急事業開始
- 昭和63年9月14日 ● 本会が特定公益増進法人に認定
- 平成元年11月3日 ● 本会創立100周年を迎え、10月26日に東京港で救難訓練全国大会、27日に日本海運倶楽部で記念式典を挙げる
- 平成7年10月1日 ● 洋上救急制度発足10周年を迎え、10月4日に日本海運倶楽部で記念式典を挙げる
- 平成9年6月12日 ● 定款の一部改正を行い、各支部の地方組織としての独立化作業を開始
- 平成13年2月14日 ● 全臨海都道府県41ヶ所に地方組織(地方水難救済会)を整備
- 平成13年7月25日 ● 高円宮憲仁親王殿下を初代名誉総裁に推戴
- 平成14年11月21日 ● 名誉総裁高円宮憲仁親王殿下薨去
- 平成15年2月19日 ● 憲仁親王妃久子殿下を二代名誉総裁に推戴
- 平成19年6月 ● 国際海難救助連盟設立総会に出席
- 平成21年11月 ● 創立120周年
- 平成23年4月 ● 公益社団法人日本水難救済会へ移行

琴陵宥常氏の像



# 海を愛し、人を尊ぶ心。

120年間、脈々と受け継がれてきた海  
の安全を守る奉仕の精神



象頭山金毘羅全図

環遊日記  
緒言  
一此編ハ明治十九年六月二十三日東京ヲ發スルニ始マ  
リ二十年四月二十一日歸朝ニ至ルマテ其行程長崎ヨ  
リ釜山元山津ヲ經テ浦潮新徳ニ航シ悉比利地方ヲ經  
歴シテ聖彼得堡ニ出テ又南ニ回リ黒海ヲ涉リ君士坦  
丁ニ到リ雅典及羅馬ヲ經歴シ維納伯林ヲ回リ巴里ヲ  
經テ倫敦ニ抵リ紐育ニ航シ華盛頓府ニ住居シ夫ヨリ  
桑港ニ出テ太平洋ヲ航シテ歸朝シ日ヲ歴ルコト三百  
三日其間見聞ノ事狀ヲ日記ニ繫テテ記述セリナリ  
一悉比利地方ノ経歴ハ浦潮新徳ヨリ海路ヲ取リ薩哈連

水難救済  
全 安部第二等勳章  
全 安部第三等勳章  
今夕ノ發程ヲ明クニ延引ス  
露國ニ水難救済協會ナル者アリ有志者ノ義舉ニ係リ水  
上遭難者ヲ救済スルヲ目的トスルニ、ト氏之カ會長ト  
シ故ニ同氏ニ就テ同會ノ沿革及現況並ニ其所用スル救  
助船救難器具ノ事ヲ詳ニシテ得テ因テ左ニ之ヲ叙  
列ス  
水難救済協會沿革概略  
千八百六十六年四月四日露國皇帝アレキサンデルニ  
世危難ヲ免レ玉レコレトアリ其紀念ノ爲ニ當時海軍

黒田清隆伯爵著「環遊日記」抜粋

我が身を顧みず人命救助に尽くす、  
日本における水難救済の歴史。  
それは、讃岐琴平の地に始まる。

讃岐の地に古くから「海の護り神」と呼ばれてきた金刀比羅宮があります。金刀比羅宮の由緒については二つの説があり、そのひとつはヒンドゥー教のガンジス川の神クンビーラが仏教に取り入れられ宮比羅大將となり、神仏習合によって金毘羅大権現が成立。クンビーラがガンジス川の水神であったことから、日本では海上交通の護り神として信仰されてきたというものです。もうひとつの説は、古代、金刀比羅宮がある象頭山の麓まで入江が入り込んでいたため、金刀比羅宮は「海の護り神」として信仰されるようになったというものです。

明治19年のノルマントン号事故を  
機に水難救済の必要性を痛感した  
金刀比羅宮宮司、琴陵宥常氏。

明治19年(1886)10月、イギリスの貨物船「ノルマントン号」が紀州大島沖で座礁沈没しました。この時、イギリス人乗組員は全員脱出して助

かりましたが、乗り合わせていた日本人23人は船に取り残され全員が水死しました。この水難事故は幕末に締結した日本と諸外国との間で結ばれていた不平等条約がからみ、大きな国際問題になりましたが、同船船長に対する責任は事故の規模から見ると極めて軽微であり、日本国民の感情を大きく傷つけました。

この事故の経緯や結果をみて、金刀比羅宮宮司であった琴陵宥常氏は海上安全を祈願しながら水難救済制度の必要性を痛感しました。

「神護は人力を尽くして初めて  
得られる」の信念で、  
私財を投じ奔走した宥常宮司。

神護は人力の限りを尽くして初めて得られるものであり、徒らに神力のみで頼るのは神に敬意を失うものであると考えた宥常宮司は、日夜海難守護の神に仕えて海上安全を祈願するかたわら、何とかして現実にも多発する海上の遭難者を救う方法、組織のありかたを得ることはできないかと苦慮していました。

思案に暮れていた明治20年(1887)時の農商務大臣黒田清隆伯爵の欧州視察旅行記録「環遊日記」が発行され、その中にロシア水難救済会の沿革、組織、職能についての詳細な説明が紹介されていました。これに目を通す機会のあった宥常宮司は感動し、さっそく水難救済会の設立を目指して積極的に行動を起こしました。

当時の日本は鎖国政策を捨て、明治の時代になって20年、国力の発展に伴い海上交通は日々輻輳の度を加え、漁業もまた近海から遠洋に活動の場を拡大していたため、海上の遭難も著しく増加し、新聞事業の発展もあいまって報道される海上遭難の記事は広く一般の人心を刺激し、海難救助の必要性が識者の間によく認められてきていました。

明治21年(1888)、宥常宮司は上京して水難救済会の設立に向け活動を開始。「大日本帝国水難救済会大旨」を起草し、識者に送付してこの制度の必要性を説き、ひろく協力を求めました。



金刀比羅宮 御本宮

**明治22年、今日の日本水難救済会の礎が築かれる。初代総裁に有栖川宮威仁親王殿下を推戴。**

明治22年(1889)3月、宥常宮司は当時の総理大臣黒田清隆伯爵に会い、水難救済会設立に大きな賛同を得ました。さらに、当時の海軍次官等と設立について協議を重ね、同年11月3日の天長節に讃岐の金刀比羅宮において「大日本帝国水難救済会」の開会式が推挙され、こ

に今日の日本水難救済会の礎が築かれました。

越えて、明治23年(1890)4月、有栖川宮威仁親王殿下を初代総裁に推戴するとともに、役職員を充実し、事務組織を逐次整備して、その基礎を固めました。

宥常宮司は明治25年(1892)2月、琴平で逝去されましたが、海の安全と人を尊ぶ精神は変わることなく今も脈々と受け継がれています。



有栖川宮威仁親王殿下

**敵兵を救助した水難救済会の人道主義に東郷提督が感謝。**

明治38年(1905)日露戦争での日本海海戦で日本海軍はロシアバルチック艦隊を撃破しましたが、このとき2名の敵兵が水難救済会によって救助されました。この人道主義の発露ともいべき水難救済会の行動に東郷提督は心を打たれ、水難救済会のために黄金色の扇に「義普 八紘 愛續 四海」の書を残しています。この書の意味は、水難救済会の正しい活動(義)が国内外隅々に(八紘)普く広がると、さらに、愛が世界の海(四海)に広がる(続)くと解釈できます。



**現在も息づく 琴陵宥常宮司のDNA。**

世紀を超えて脈打つ願い 遙か明治の時代、相次ぐ水難事故を憂い、「海の護り神」である金刀比羅宮で海における人命の安全をひたすら祈り続けていた宥常宮司の水難救済への願いは、ここ讃岐の地で開花しました。それから幾星霜、世紀が変わり、我が国を取り巻く状況が変化した現在でも、その精神はいささかも変わることなく日本水難救済会により脈々と引き継がれています。

平成16年(2004)秋に執り行われた金刀比羅宮「平成の大遷座祭」斎行記念の悼尾を飾る特別展として、平成17年4月から5月にかけて『高円宮憲仁親王殿下を偲ぶ展・写真とコレクションで綴る、在りし日のメモ

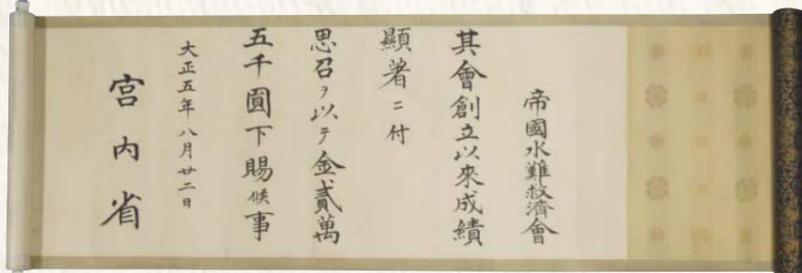
リー』を開催いたしました。この特別展では、憲仁親王殿下のご遺志を継がれた妃殿下が、名誉総裁をおつとめになられておられます本会関連のパネルなども併せて展示させていただき、ここに宥常宮司の今に生きるDNAを見る思いがいたしました。

今に生き続ける宥常宮司の精神 時代とともに日本水難救済会は、新たに洋上救急事業や青い羽募金活動に取り組む等、極めて有意義な展開をみっていますが、常に人力の限りを尽くすという宥常宮司の根本的なボランティア精神が、その根底にあることを感じます。

現 金刀比羅宮宮司としても、今に生きる宥常宮司の大きな存在を誇りとするところであります。



現 金刀比羅宮宮司 琴陵容世(ことおか やすつく)氏



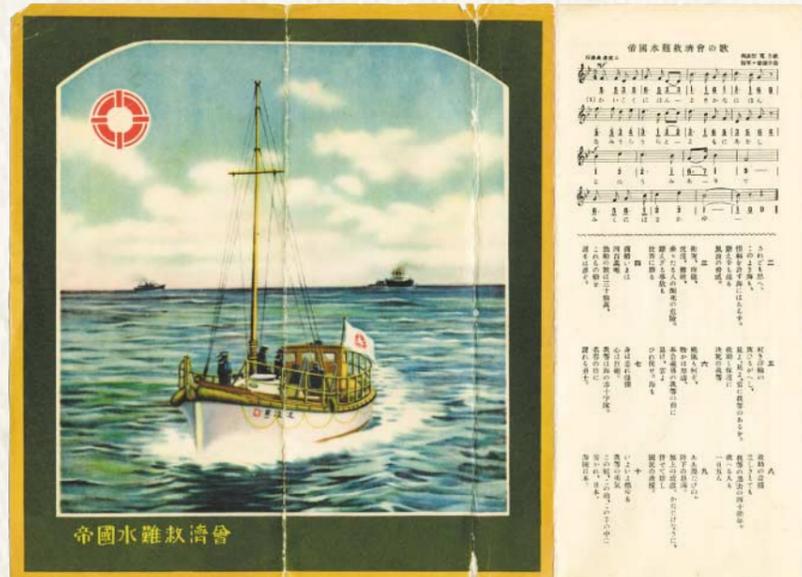
大正5年、当時の宮内省よりの思召下賜証書



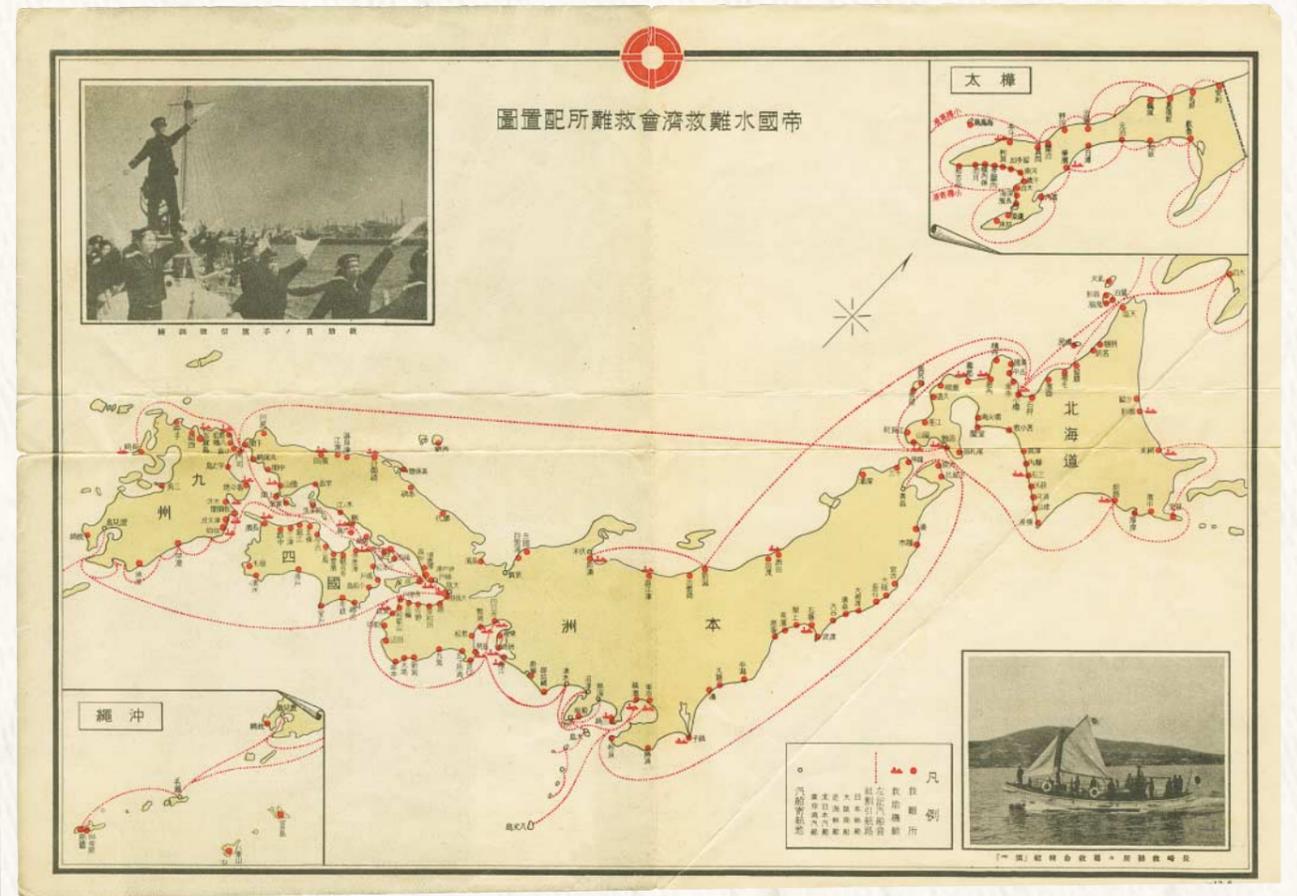
昭和3年発行の「海の赤十字」イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、イタリア5ヶ国の水難救済機関の概要を紹介。



昭和12年当時の事務要覽



昭和9年発行の会報



昭和11年当時の救難所配置図

# 公益社団法人 日本水難救済会(マリン・レスキュー・ジャパン)は 海で遭難した方々の救助を行う ボランティアを支えるための団体です。

## 海の犠牲者ゼロを目指して

明治22年(1889)の設立以来、全国各地に展開する日本水難救済会の救助員は数多くの海難に出動し、沿岸海難救助に多大な成果を挙げています。また、海上の傷病者を救う世界に類を見ない洋上救急事業の必要性は日本船舶をはじめ、日本近海を航行する外国船舶からも高く評価されています。

全国1,267カ所の救難所・支所に所属しているボランティア救助員約5万4千人は、漁業や会社員などの職業を持った方々ですが、一旦事あれば我が身の危険に臆することなく尊い人命を救う崇高なボランティア精神にもとづく救助員として活動します。日本水難救済会はこのようなボランティアを支援して、海の犠牲者ゼロを目指して活動を続けている団体です。

当会の幅広い取り組みと今後のさらなる事業展開に関して、多くの皆様のご理解、ご協力が得られますことを期待する次第です。



公益社団法人 日本水難救済会  
会長 相原 力

## 日本水難救済会の取り組み

本会の事業は、海上保安庁等関係官庁及び地方自治体のご指導、日本財団、日本海事センター、大日本水産会、全国漁業協同組合連合会、漁船保険中央会、日本船主協会、全日本海員組合などの協力団体、多くの医療機関、国民一般の皆様のご支援により実施しています。

### 海難救助 P09

水難救済会の救助活動は救難所員が生業を投げうってボランティアで行っています。救難所員は海難救助要請の情報を入手した場合、昼夜を問わず直ちに救助に出動します。海上での人や船の遭難、海浜や岸壁での人の事故等、遭難の形態は様々で、また、救助対象も一般船舶・漁船・ヨット・磯釣りなど、広範囲に及びます。



### 洋上救急 P13

日本の周辺海域を航行する船舶内で、病気や負傷により緊急に医師の治療を必要とする患者が発生した場合、当会の洋上救急センターは、船主と関係機関との連絡・調整を行い、海上保安庁の船舶、航空機等で医師、看護師等を現場に急送。応急治療を実施しつつ、全国145医療機関等の協力の下に救助が遂行されます。



### 水難救済思想の普及 P15

若者の水難救済ボランティア教室は、平成13年度から始まった事業で、国土交通省、海上保安庁及び消防庁の後援を受けて行われています。小中学生や高校生等の若者に海に親しむ機会を与え、実地体験をとおして救命技術を習得させることにより、海での安全意識の向上を図るとともに水難救済ボランティア思想の普及啓蒙を行っています。



| 荣誉ある表彰 P17

| 青い羽根募金 P19

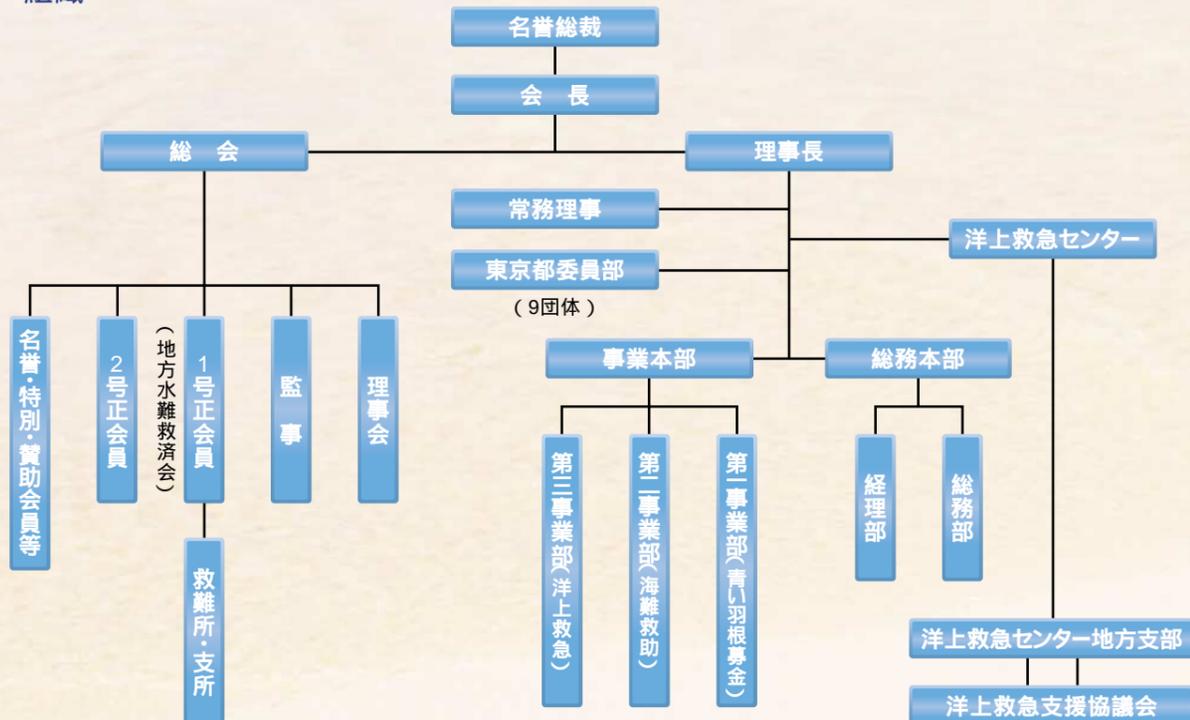
| 調査・研究 P21

| 会員一覧 P22

| 海難救助・洋上救急の実績 P23

| 全国の救難所 P25

## 組織



# 海難救助

自らの危険を顧みず人命救助に尽くす“海の救難ボランティア”  
設立以来、救助人員は194,583名、救助船舶は39,111隻を数えます。



## 救助ドキュメント

### 水中撮影していたダイバーを海上保安庁のヘリで救出

発生日:平成22年10月16日

青森県水難救済会 竜飛救難所

水中撮影していたダイバー2名のうち1名が消息不明との連絡が竜飛救難所に入った。

外ヶ浜警察署および海上保安部に連絡するとともに、同行していたダイバーから情報収集。大時化で船を出港させることが困難であったため、潜水した場所の付近を徒歩で捜索することとし、救難所員を召集した。捜索したところ、湾になった箇所フィンだけ見えている状態の遭難者を発見。捜索していた海上保安庁のヘリコプターに連絡し、救助が行われた。



フィンだけ見えている遭難者を発見

### 岩場の孤立者とクーラーボックスにしがみついていた漂流者2名の救出劇

発生日:平成22年10月9日

沖縄県水難救済会 国頭救難所



救助を待つ遭難者

与那トンネル沖合いの二箇所の岩場にゴムボートで渡った釣り人は、うねりが高まってきたことからボートに移乗することが出来ず孤立してしまった。状況を見ていた他の釣り人の通報で海上保安庁のヘリが出動、同時に国頭救難所から漁船1隻、また近くのリゾートのオクマ救難所からは水上バイクが出動した。大きな岩場の孤立者は海上保安庁のヘリで吊り上げ救助したが、小さな岩場の2名は海中に転落し大きなうねりの中を、クーラーボックスにしがみついていた漂流、現場に到着した漁船と水上バイクで揚収救助した。

### プレジャーボートの暗礁に乗り上げた乗員2名を救出

発生日:平成22年4月3日

和歌山県水難救済会 紀南西部救難所

釣りのため島島付近にいたプレジャーボートが、風に圧流され暗礁に乗り上げた。自力離礁ができず乗員2名が救助を求めているところ、付近を航行していた紀南西部救難所員が気づき、現場に赴いた。

現場は多数の暗礁が存在し、さらに強風のため自船も座礁する可能性がある中、乗員を救助。更にプレジャーボートが流されないよう、岩場に固定した。プレジャーボートは乗員搬送後に引き下ろされ、漁港まで曳航された。

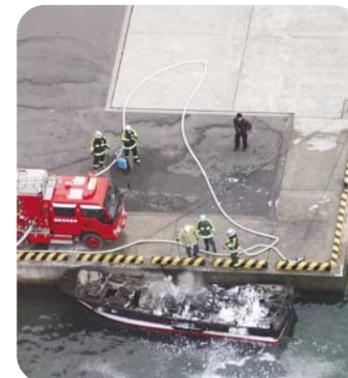


暗礁に乗り上げたプレジャーボート

### 火災船から海面に逃れた漂流者を助け、消火活動にも協力した

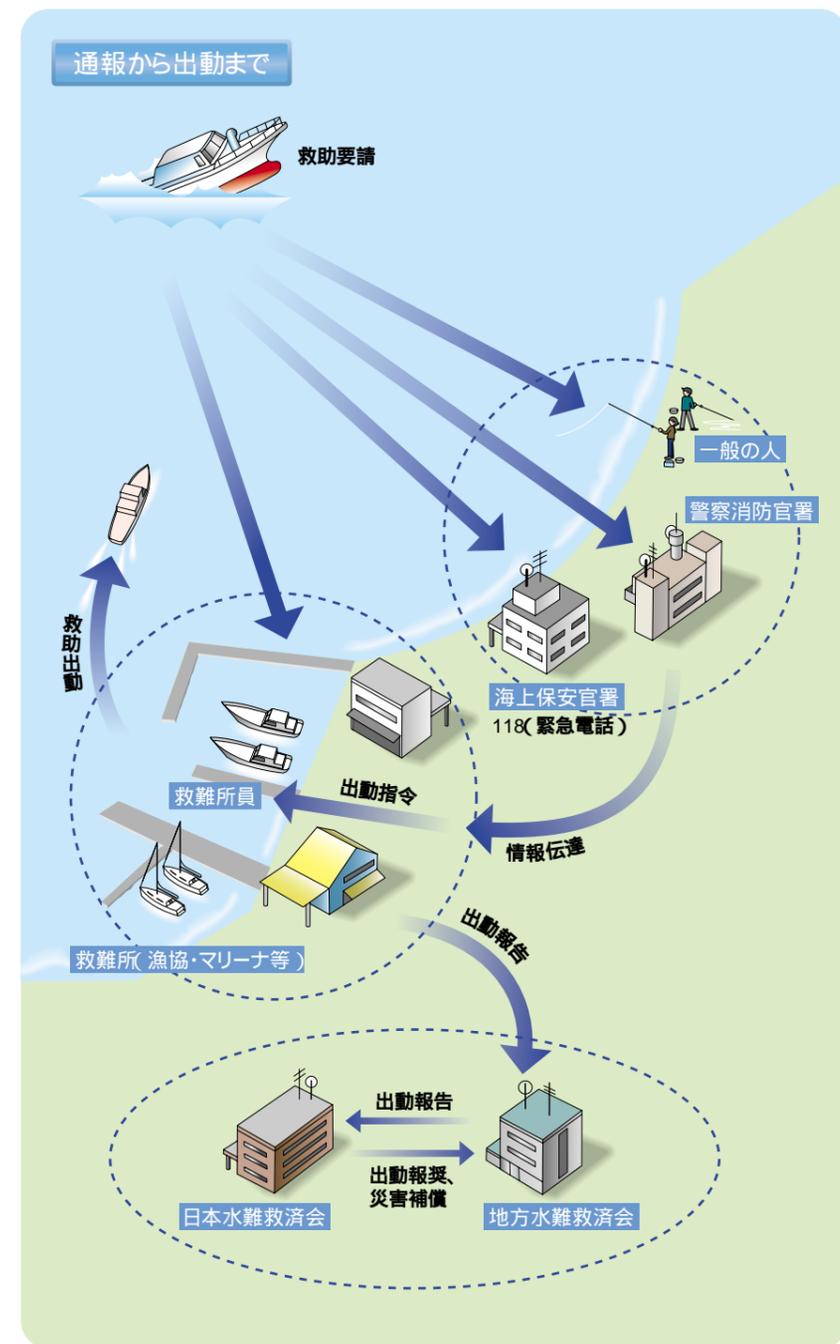
発生日:平成21年11月5日

宮崎県水難救済会 南部救難所



火災漁船の消火活動

漁場に向け航行中の漁船が火災状態となった。乗員は身の危険を感じて、漁業用浮体2個を手に海面に飛び込み、漂流状態となった。午前6時頃、イカ釣り漁を終えて帰港の途にあった救難所所属船漁船ゆき丸(乗員1名)は沖合に火災船を認めたことから救助に向かい、約30分後に到着。船内に人影がなかったことから、付近海域を探したところ、漂流している乗員を発見、揚収救助した。また、ゆき丸は大納港内で消防本部に協力し火災船を港内まで曳航、消火活動に協力した。



# 海難救助

事故の無い平和な海を祈りながら、万が一の時に備え、日々の訓練や救難器具の整備に努めています。

## 救助に必要な知識、技術習得のために

### 各種訓練

海難の救助は夜間や荒れ狂う海で行われることが多く、遭難した人や船を救助するためには、日頃から救助技術の錬磨と、チームワークを養う必要があります。

各救難所では、日本財団の助成を受けて、いざという時に備えて訓練を実施しています。



### 救命索発射訓練(大分県)

この訓練は、遭難船に救助用のロープを渡すための訓練です。遭難船を曳航したり、遭難船に救助用の器材を渡すするためにロープ発射器の取り扱い、風向きや距離を考慮した発射方法を学びます。

### 心肺停止時の蘇生訓練 山形県水難救済会

この訓練は、遭難者が心肺停止状態にあるとき、一定の間隔で胸を反復して圧迫したり、口から息を吹き込む事によって、止まってしまった心臓や呼吸の動きを助ける訓練です。最近では、AED(自動体外式除細動器)により、心臓に電気ショックを与えて蘇生させる訓練も併用されるようになりました。



## 救助活動を協力をサポート

### 救難器具

救助作業に必要なゴムボート、消防兼排水ポンプ、救命索発射器、発電機、担架、救命胴衣、トランシーバーなどの器具は、青い羽根募金等の寄付金を受けて整備する一方、海上保安庁からの無償貸与も受けています。これらの器具は、いつでも使用できるよう各救難所に保管されています。

### 消防兼排水ポンプ 温海救難所(山形県)

船舶火災の救助にあたっては、消火のために消防ポンプとして活用します。また、座礁したり衝突したりして浸水している船舶を救助するときには、排水ポンプとして活用します。救難器具は定期的に点検して、いつでも使用できる状態で保管されています。



## 全国の主要救難所に配備

### 救助船

救助船は、郵便事業株式会社のお年玉付年賀葉書等の寄付金による補助等を受け、主要救難所に配備され、現在全国に24隻が活動中です。

### 稲佐救難所(長崎県)の救助船『旭龍』

この船舶は、固定消火ポンプや救助用ゴムボートを搭載し、いつでも出動準備が整っています。総トン数7.3トン。最高速度は約54km/h。

## 奉仕の精神に報いるために

### 救助出動報奨

救難所員の献身的な海難救助行為に対し、社会公共の感謝を表す報奨の意味で、出動した救難所員に対し、一定の救助出動報奨金が支給されます。

### はさき支部救難所(茨城県)での救助出動

救難所では、海難事故の情報を入手すると救難所長が救助出動を指令します。救難所員は、救助出動の指令が出ると生業を中断してでも海難現場や救難所に駆けつけ、一致協力して救助活動に当たります。

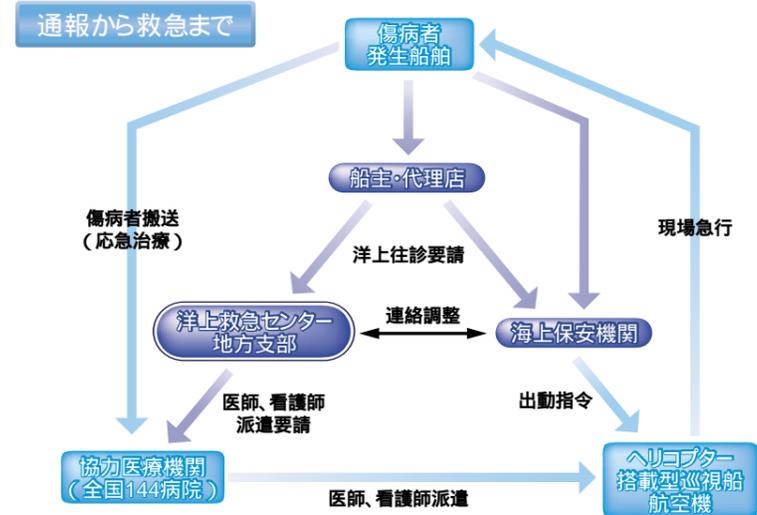


# 洋上救急

海上の傷病者を救う世界唯一のシステム“海の救急医療”  
昭和60年の設立以来、出動は723件、救助人員は753名を数えます。

## 船舶で傷病者が発生すると...

我が国の周辺海域においては、遙か洋上の船舶内で傷病者等が発生し、緊急に医師の加療を必要とする場合、海上保安庁の巡視船・航空機等で医師・看護師等をその船舶まで急送して応急治療を行いつつ、最寄りの病院に搬送しています。



## 慣熟訓練

洋上救急では、医師や看護師は巡視船やヘリコプターに乗り込み、遙か洋上で出動し、厳しい自然条件や巡視船・ヘリコプターの動揺、騒音等の悪条件下における救命治療が必要とされます。

このため、全国各地域では多数の医師・看護師が訓練に参加し、ヘリコプター等に搭乗して訓練を行うなど、現場の状況を体験し出動に備えています。



吊り上げ搬送訓練  
患者の吊り上げ搬送には、患部を圧迫しないように、適切な手順により処置する必要があります。



患者収容状況の確認  
ヘリコプター機内での患者の収容状況を確認しています。

## 救助ドキュメント

### 飛行艇により 急病人を救出

発生日:平成22年5月18日  
場所:千葉県犬吠埼の東  
約340海里

通信長が顔面蒼白ろれつがまわらなくなり、歩けない症状を訴えたため、医療機関より助言を受けた後、船主から洋上救急の要請。海上自衛隊の飛行艇に医師2名と看護師1名が同乗し厚木基地を出発。

飛行艇は犬吠埼の沖合約550kmに着水、患者を収容した後、厚木基地に着陸、患者を救急車に引き渡した。



着水、患者収容中の飛行艇

### 漁船からの 洋上救急

発生日:平成22年5月28日  
場所:喜屋武埼灯台の南南西  
約57海里



洋上で該船から患者を吊り上げるヘリコプター

漁船乗組員が投縄中に痙攣をおこした。医療機関に指示を受けたところ、早急に医療機関に搬送する必要があるとの指示を受け、船主から洋上救急の要請。

ヘリコプターに医師1名、看護師1名と機動救難士2名が同乗し、該船向け那覇基地を出発。ヘリコプターが該船から患者を吊り上げ収容し、那覇基地にて患者を救急車に引き継ぎ、病院に搬送したが、病院において患者の死亡が確認された。

### 巡視艇潜水士が出動した 洋上救急

発生日:平成22年9月6日  
場所:波照間島の南東  
約63海里

心臓病を患っている機械員がいる旨の連絡が海上保安庁に入り、医療助言を求めたところ、心筋梗塞の疑いがあるとのことで、代理店から洋上救急を要請。

ヘリコプターに医師1名と巡視艇の潜水士2名が同乗し、該船向け石垣航空基地を出発。

ヘリコプターが該船より患者を吊り上げ機内に収容し、石垣航空基地へ搬送。患者を救急車に引き渡した。



ヘリコプターから救急車に引き渡し

### 海上保安庁航空機と航空自衛隊 ヘリコプターとの連携による洋上救急

発生日:平成22年12月8日  
場所:沖縄本島の南  
約216海里



医師等による機内での応急治療

乗組員が右腕の一部を切断し、ぶら下がった状態になり出血。医療機関に医療助言を求めたところ、止血して、至急医療機関に搬送する必要がある旨の連絡があり、船主から洋上救急の要請。海上保安庁飛行艇に医師、看護師が同乗し、南大東島向け那覇航空基地を出発。南大東島において医師等は飛行艇から航空自衛隊ヘリコプターに移乗し、南大東島を出発。該船と会合、患者を吊り上げ収容した。その後、海上保安庁航空機で那覇航空基地へ搬送し、患者を救急車に引き渡した。

# 水難救済思想の普及

将来のボランティア救助員を育てるために、全国各地で水難救済教室を開催しています。



昭島市立  
拝島第二小学校での  
ボランティア教室

青少年ボランティアセミナー受講者を対象に教室を開催し、受講者は事故に遭わないための心構えや着衣泳などを学びました。

## ボランティア教室

青少年を対象に、海事思想や水難救済ボランティア思想を啓蒙することにより、本会の良き理解者～将来の後継者～になってもらえるよう、海上保安官やライフセーバーの方を講師に招いて、若者の水難救済ボランティア教室を全国で展開しています。



京都府水難救済会でのボランティア教室

AEDを使用した心肺蘇生法を学びました。



佐賀県唐津市立呼子小学校でのボランティア教室

水難事故防止及び事故発生時の対処方法を伝えるとともに、自己救命策3つの基本を学びました。



能登町立小木小学校(能登)でのボランティア教室

夏休み前に、万一の水の事故に備えて浮いて救助を待つことの体験をしました。

## ボランティア教室参加者の声

### ペットボトルで人を助けられるんだ 京都市小学生

この学習の中で一番心に残ったことは、ペットボトルで人を助けられるということです。すごいなと思いました。服を着ながら泳ぐことは、とても重かったです。海でおぼれてしまったら、くつはぬがなくて良いという所におどろきました。

### 相手の為、自分の為に行動する 沖縄県中学生

水難救済ボランティア教室を受けてみて、もしこれからの人生で水難事故に遭遇した時には、ライフセーバーの方々に教わったことを生かして、真っ先に相手の為に、そして自分の為に行動しようと思う。

### パニックにならないで行動しよう 東京都小学生

「もしも、溺れてしまったら」「もしも、溺れている人を見かけたら」など、もしものことがあったとき、パニックにならないで、おちついて行動するためにどうすればいいか? 近くにいる大人の人を呼ぶ。 浮く物をなげ入れる。(ペットボトルなど) 電話をする。ということを教えてもらいました。 けて、自分では助けにいいはいいとわかりました。

### 教師からのお礼 佐賀県小学校教師

子どもたちのために着衣水泳の指導をしていただき、ありがとうございました。子どもたちも身のまわりにあるもので、大切な命を守ることができることを知り、驚いていたようです。子どもたちに再度、命の大切さ、水の恐さ(楽しいばかりでないこと)を教えていきたいと思います。本当にありがとうございました。

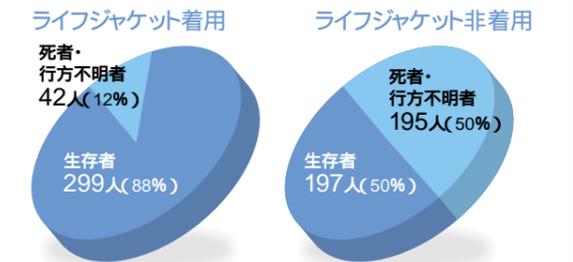


市原市立ちはら台桜小学校でのボランティア教室

着衣歩行、事故に遭遇した場合の対処方法として(ランドセル、ペットボトル等)身近な物を利用した対処方法について学びました。

## 自らの身を守るために

船舶からの海中転落者について、ライフジャケットの着用・非着用でデータを見ると、着用者の生存率は88%(死亡率は12%)であるのに比べ、非着用者の生存率は50%(死亡率は50%)という結果となっており、ライフジャケットの着用が生存率向上に大きく寄与していることがわかります。

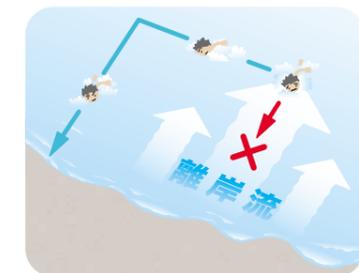


海中転落者のライフジャケット着用別の状況  
平成20年・平成21年(平均)



着衣泳法

服を着たまま泳ぐのは想像以上に困難なことです。しかし、船から海中に転落した場合など、いざという時のために訓練しておくことが大切です。



離岸流

岸から沖に向かって、強い流れを起す離岸流。もし、巻き込まれてしまったら、まっすぐに戻ろうとせず、海岸と平行に移動し、離岸流から抜け出した後、岸に向います。

## 大切な命は自分で守る...3つの基本

- 海に浮いておくこと → ライフジャケットの着用
- 連絡手段を持つこと → 携帯電話の携行(防水バック利用)
- 救助要請をすること → 118番の有効活用

# 栄 誉 あ る 表 彰

奉仕の精神で海の安全に貢献された方々の功績を讃え、表彰を行っています。

## 名誉総裁表彰式典

本会の名誉総裁 高円宮憲仁親王妃久子殿下のご台臨を賜り、名誉総裁表彰式典を開催しております。



お言葉を述べられる名誉総裁 高円宮憲仁親王妃久子殿下



表彰を受ける高知県水難救済会 宇佐救難所の上野所長

## 救難所員等に対する表彰

海難救助に功労のあった救難所員等は、次の表彰の対象になります。

### 名誉総裁表彰

海難救助や洋上救急に極めて抜群の功労があった個人または団体には、表彰状または感謝状と名誉総裁章または同盾を贈呈いたします。

### 会長表彰

海難救助や洋上救急に功労のあった個人または団体には、救助功労表彰、救助出勤回数功労表彰、勤続(永年従事)功労表彰、洋上救急功労表彰等の表彰を行います。

また、救難所員以外の方であっても、功労のあった協力者には感謝状を贈呈いたします。



(このような本会の表彰のほか、海上保安庁など関係官庁からの表彰や社会貢献支援財団からの表彰、国からの叙勲・褒章を受けることもあります。)



高知県水難救済会 宇佐救難所

## 寄付に対する表彰

本会に多額の寄付をして頂いた方は、次の表彰の対象となります。

### 名誉総裁表彰



名誉総裁章(個人)



名誉総裁盾(法人・団体)

100万円以上のご寄付をしていただいた個人には名誉総裁章と感謝状、300万円以上のご寄付をしていただいた法人・団体には、名誉総裁盾と感謝状を贈呈いたします。

### 紺綬褒章

一時に、500万円以上のご寄付をされた個人、1,000万円のご寄付をされた法人・団体は、紺綬褒章の対象となりますので国に上申します。

### 会長表彰



有功章(個人)



事業功労有功盾(法人・団体)

10万円以上のご寄付をしていただいた個人または法人・団体には、感謝状を贈呈いたします。

20万円以上のご寄付をしていただいた個人には有功章と感謝状、法人・団体には事業功労有功盾と感謝状を贈呈いたします。

## 平成22年度名誉総裁表彰受賞者

表彰受賞者	表彰理由
海難救助功労(団体の部) 高知県水難救済会 宇佐救難所	平成21年9月27日、高知県土佐市宇佐沖合で遊漁を終え帰港中の遊漁船「エピソード」から乗船者1名が海中へ転落。海上保安庁から救助要請を受けた救難所員3名は操船者と捜索者との連携のもと、転落位置から数マイル離れた海域で転落者を発見、救助した。
洋上救急功労(団体の部) 長崎県五島中央病院	洋上救急事業の協力医療機関として、これまで31件の洋上救急事業に対して52名の医師・看護師を派遣、巡視船や航空機等に同乗して出勤し、傷病者36人に対して医療処置を行った。
事業功労[金品寄贈](団体の部) SGホールディングス株式会社	日頃から水難救済事業の重要性を深く認識され、青い羽根募金強調期間中には全国の社員が一同に青い羽根を着用して業務に従事するなど、青い羽根募金活動に全社を挙げて取り組み、多年にわたり多額の寄附をされた。
事業功労[金品寄贈](個人の部) ジュン ペイジ(Mr. Jun Page)	本会の正会員であり、水難救済事業へ多大なご支援をくださっていたペイジ グラハム ジョン氏が、平成21年3月10日にご逝去。ご子息のジュン ペイジ氏は故人のご遺志を汲み、日本水難救済会の発展のためにと本会に多額の寄附をされた。
事業功労[金品寄贈](個人の部) 河崎 則子	平成20年11月1日、熊本県の八代海で遊漁中の夫を海難事故で亡くされたことから、水難救済事業の重要性を深く認識。捜索救助活動等に役立てて欲しいとの強い思いから、平成22年3月23日「青い羽根募金」に多額の寄附をされた。

### 災害補償など

救助活動や訓練中に災害を受けた場合の補償制度があります。

### 災害補償

救難所員が救助活動または訓練中に災害を受けた場合、その被災の内容に応じて、所員またはその遺族に対し、療養補償、障害補償、介護補償、休業補償、遺族補償、葬祭補償を行います。ただし、「海上保安官に協力援助した者等の災害給付に関する法律」が適用される場合は、これらの補償は受けられません。

### 賞じゅつ金

救難所員が上記の災害補償の適用を受けた場合、功労の程度、被災の内容に応じて、殉職者賞じゅつ金、障害者賞じゅつ金を給付します。

# 青い羽根募金



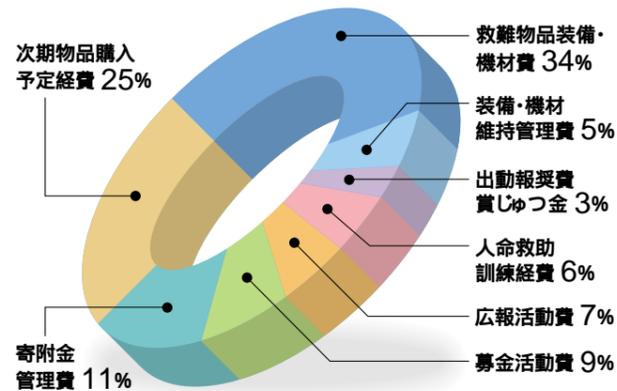
全国54,000人のボランティア救助員の活動を支えます。

海難救助は、厳しい条件の中で行われるため、効果的、かつ、安全な救助活動を行うことができるよう救助員は、常日頃から組織的な訓練を行うとともに、ライフジャケット、ロープ等の救助資機材の整備、救助船の燃料等も必要となります。

これらに必要な資金を確保するため、日本水難救済会では、海上保安庁のご指導により昭和25年から「青い羽根募金」を開始し、周年で国民の皆様にご寄付をお願いしています。

平成22年度は、皆さまのご支援により91,531,792円の募金をいただきました。

## 平成22年度 青い羽根募金の使用実績



111,451,060円

前期からの繰越額(物品購入予定経費19,919,268円)を含む

青い羽根募金の使途は部外の有職者で構成する青い羽根運営協議会委員の審議承認を得て決定されます。

## 救難用物品、装備・機材



救助艇



水上オートバイ



救急セット



AED



救難機材



携帯用発電機・投光器



人命救助訓練



出動報奨

## 青い羽根募金にご協力をお願いします。

### 募金活動

日本水難救済会では、周年、青い羽根募金活動を展開していますが、7月～8月の2ヶ月間は、特に「青い羽根募金強調運動期間」と銘打って41ヶ所の地方水難救済会と協力して全国的な運動を展開しています。

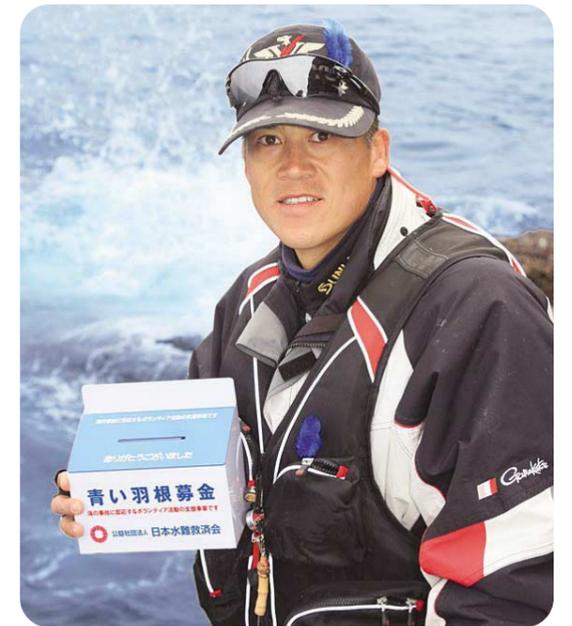


### 東京海洋大学 募金活動

東京海洋大学海王寮の有志が、平成22年7月10日、11日の両日、東京都江東区の地下鉄門前仲町と豊洲駅付近において、募金活動を行いました。

### 藤沢海洋少年 募金活動

藤沢海洋少年は、平成22年10月3日(日)、ふじさわ健康メッセ2010の会場である藤沢市民会館において、募金活動を行いました。



青い羽根募金アドバイザー 阪神タイガース 城島 健司 選手



### 募金支援自動販売機の設置

日本水難救済会では青い羽根募金支援自動販売機の設置を全国展開しております。同販売機から飲み物をご購入頂きますと、売上金の一部が青い羽根募金に還元されます。

## 募金の方法

### 口座振込みによる募金

#### 郵便局

口座番号:00120-4-8400

加入者名:

公益社団法人 日本水難救済会

#### 銀行

三井住友銀行 日本橋東支店

口座番号:(普)7468319

加入者名:公益社団法人 日本水難救済会

青い羽根募金口座

### インターネット募金



クレジットカード



ちよコム 電子マネー

ホームページから以下の方法で募金ができます。

クレジットカードはMasterCard、VISA、JCB、AMEXがご利用できます。

NTTコミュニケーションズが提供するネット専用電子マネー「ちよコム」がご利用できます。

## 寄付金に対する税制上の優遇措置

青い羽根募金は海で遭難した人々の救助活動にあたるボランティアの方々54,000人を支援するための募金です。日本水難救済会は「特定公益増進法人」であることから、本会に対する寄付金については、寄付して頂いた方々に対し所得税・法人税の税法上の優遇措置があります。

## お問い合わせ先

0120-01-5587

募金フリーダイヤルでお申し出くだされば、振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りします。

後援:国土交通省、海上保安庁、水産庁

# より、効率的な救助システムの確立のために...

## 調査・研究

民間の海難救助体制のあり方や海外の海難救助体制などについて調査・研究を行っています。

年度	研究テーマ	主要調査研究内容
昭和59年度 ～62年度	民間海難救助体制の検討	1.海難救助活動の実態 2.海域利用者の救助主体 3.民間における海難救助体制 4.公的救助機関と民間救助機関の役割
昭和62年度	海難救助におけるエイズ等の感染防止対策に関する研究	1.エイズ等の感染防止対策の現状 2.海上における人命救助活動に携わる者のエイズ等の感染防止対策 3.「海難救助におけるエイズ等の感染防止対策の手引」の発行、以後毎年度改訂版発行 4.エイズ等感染防止対策に関するQ&Aを発行
昭和62年度 ～63年度	インドネシア国海難捜索救助並びに海難予防体制整備計画調査団への参加	インドネシア海域の海難防止・救助の組織・体制の整備方策の提言
昭和63年度	レジャー海難における有効な救助艇・救助器材等の調査研究	1.海洋レジャーの種類ごとに適応した救助艇・救助器材のあり方 2.民間海難救助機関に整備を必要とする救助艇・救助器材
平成元年度	民間海難救助体制活性化に関する調査研究	1.日本水難救済会等民間海難救助組織の現状と問題点 2.日本水難救済会等民間海難救助体制活性化のための提言 3.外国における類似制度の調査結果の考察 4.日本水難救済会の実費求償制度導入における具体的方策の検討 5.日本水難救済会の災害補償制度のあり方
平成7年度 ～8年度	ヴェトナム国沿岸海上輸送整備開発計画調査団への参加	ヴェトナム国沿岸における海上安全に関し、捜索救助、海上通信の分野における中長期整備計画策定のための調査、提言
平成9年度 ～11年度	救難所員に対する災害補償のあり方	1.救難所員の災害補償制度のあり方 2.自損事故、対人対物にかかる損害補償 3.救難所員に協力した者に対する補償
平成12年度 ～14年度	海難救助ボランティア活動への支援のあり方	1.先進的諸外国における調査 2.国内ボランティア団体の調査 3.具体的方策及び長期的課題
平成15年度 ～16年度	大規模地震災害等への日本水難救済会の対応に関する基礎的研究について	1.大規模地震と被害想定 2.災害とボランティアの活動実態 3.災害ボランティアに関する国・地方自治体の施策 4.災害ボランティアの身分保障及び財政措置 5.本会救難所員が活動する場合の課題等 6.都道府県の「地域防災計画」に水難救済会が組み入れられる場合の課題 7.水難救済会及び救難所員が災害救援活動に対応する場合の課題
平成20年度	救助船の整備に関する調査	1.我が国の海難救助体制 2.今後の日本水難救済会の救助体制 3.救助船の整備 4.救助船整備のために要する費用
平成20年度 ～21年度	児童皆泳運動の実施要領の検討	1.指導方法の課題抽出と検討 2.各種泳法の体験を通して課題抽出と検討 3.救助方法の体験を通して課題抽出と検討 4.磯場体験を通して課題抽出と検討 5.活動経費の検討

# 会員の皆様のご協力のもと、本会は運営されています。

## 会員一覧

本会は会員の皆様のご協力のもと、運営を行っています。また、本会の会員となって本会の事業を支援して頂ける方々を募集しています。

### 1号正会員(41)

(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター、青森県漁船海難防止・水難救済会、岩手県水難救済会、宮崎県水難救済会、(特)秋田県水難救済会、山形県水難救済会、福島県水難救済会、茨城県水難救済会、千葉県水難救済会、東京都水難救済会、(特)神奈川県水難救済会、新潟県水難救済会、富山県水難救済会、(特)能登水難救済会、石川県西部水難救済会、福井県水難救済会、伊豆地区水難救済会、静岡県水難救済会、愛知県水難救済会、三重県水難救済会、大阪府水

難救済会、京都府水難救済会、兵庫県水難救済会、和歌山県水難救済会、島根県水難救済会、岡山県水難救済会、鳥取県水難救済会、広島県水難救済会、山口県水難救済会、徳島県水難救済会、香川県水難救済会、愛媛県水難救済会、高知県水難救済会、(社)福岡県水難救済会、佐賀県水難救済会、(特)長崎県水難救済会、熊本県水難救済会、大分県水難救済会、宮崎県水難救済会、鹿児島県水難救済会、(社)琉球水難救済会

### 2号正会員(157)

#### 【海運.....22】

飯野海運(株)、上野トランステック(株)、大阪船舶(株)、川崎汽船(株)、関東港運(株)、近海タンカー(株)、コスモ海運(株)、三羽海運(株)、(株)商船三井、商船三井近海(株)、新和内航海運(株)、太平洋フェリー(株)、(株)タカハタマリンサービス、鶴見サンマリン(株)、東京マリン(株)、NYKシッピングマネジメントジャパン(株)、藤光海運(株)、日正汽船(株)、日本郵船(株)、マルエーフェリー(株)、三菱鉱石輸送(株)、名鉄海上観光船(株)

#### 【海洋土木・サルベージ.....7】

(株)オフショア・オペレーション、(株)近藤組、東京サルベージ(株)、日本サルベージ(株)、深田サルベージ建設(株)、(株)富士サルベージ、三国屋建設(株)

#### 【水産・漁業.....3】

厚岸漁業協同組合、ニチモウ(株)、日本水産(株)

#### 【マリンレジャー.....10】

アキレス(株)、志摩マリンレジャー(株)、トーハツ(株)、ヤマハ発動機(株)、ヤンマー(株)、ヤンマー(株)東京特販部、ヤンマー(株)大阪特販部、ヤンマー(株)四国特販部、ヤンマー(株)中国特販部、ヤンマー(株)九州特販部

#### 【造船・船用機器.....19】

愛知造船(株)、(株)アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド、(株)IHシバウラ、MTU-Marubeni(株)、(株)カシワテック、(株)ケイセブ、興亜化工(株)、国際化工(株)、島田燈器工業(株)、(株)湘南工作所、隅田川造船(株)、(株)ゼニライトブイ、高階救命器具(株)、トーエイ(株)、東洋物産(株)、日本船具(株)、日本無線(株)、(株)マキタ沼津、ユニバーサル造船(株)

#### 【エネルギー.....4】

伊勢湾石油(株)、関西電力(株)、三菱石油(株)、東京電力(株)

#### 【船舶保険.....3】

東京海上日動火災保険(株)、三井住友海上火災保険(株)、明治安田

#### 生命保険相互会社

#### 【代理店その他.....14】

(株)潮日堂、(株)江戸川自動車練習所、岡部・山口法律事務所、海文堂出版(株)、交文社印刷(株)、金刀比羅宮、(株)スミエプランニング、(株)成山堂書店、ゼネラルマリンサーベヤーズ(株)、(株)東京カップ、東京法令出版(株)、トヨタ自動車(株)、(株)日本海新聞社、(株)日本海洋科学

#### 【団体.....32】

厚岸町役場、(社)江の島ヨットクラブ、海上防災事業者協会、漁船保険中央会、全国海運組合連合会、(社)全国漁港漁場協会、全国漁業協同組合連合会、(社)全国底曳網漁業連合会、全国内航タンカー海運組合、全国海苔貝類漁業協同組合連合会、全日本磯釣連盟、全日本内航船主海運組合、(特)東京救難所、東京湾水先区水先人会、日本遠洋施網漁業協同組合、日本かつお・まぐろ漁業協同組合、(財)日本海事広報協会、(社)日本海難防止協会、(財)日本海洋レジャー安全・振興協会、(社)日本港運協会、(社)日本舟艇工業会、(財)日本水路協会、(社)日本船主協会、(社)日本船長協会、(一社)日本船舶機関士協会、(財)日本セーリング連盟、日本内航海運組合総連合会、(社)日本船用工業会、(社)日本マリーナ・ビーチ協会、(社)日本旅客船協会、(特)未来に残そう青い海、横浜港運協会

#### 【個人.....43】

相原力、青柳功、浅井廣志、石井政治、石川裕己、井上雅弘、石橋幹夫、磯貝正夫、岩崎貞二、岩西武利、植松修、大口善徳、小山内智、加藤甫、鎌田耕作、上岡宣隆、北村浩志、久保禎人、熊沢長俊、桑原康記、小谷勝廣、齊藤博臣、坂本茂宏、高尾留雄、武井立一、武田治恵、橋武男、磨良三、徳野勤、友永幸謙、野間真美、林大輔、土方浩、深田廣、藤野真紀子、Page T 純江、Page Jun M、松井孝之、宮春薫、森孝顕、山本了三、横山鐵男、米山隆昭

(2号正会員については五十音順で掲載)

### 賛助会員(25)

#### 【エネルギー.....6】

九州電力(株)、JX日鉱日石エネルギー(株)、四国電力(株)、西部瓦斯(株)、東京ガス(株)、中国電力(株)

#### 【造船・船用機器.....2】

新潟原動機(株)、三菱重工(株)

#### 【保険.....1】

(株)ホーム・リಂಗガ商会

#### 【海洋土木・サルベージ.....7】

あおみ建設(株)、(株)大本組東京支店、(株)カネヤス、五洋建設(株)

タチバナ工業(株)、東洋建設(株)、(株)トマック

#### 【その他.....5】

(株)海、(有)海交会、(株)船社、北九州エアターミナル(株)、長崎空港ビルディング(株)

#### 【団体.....1】

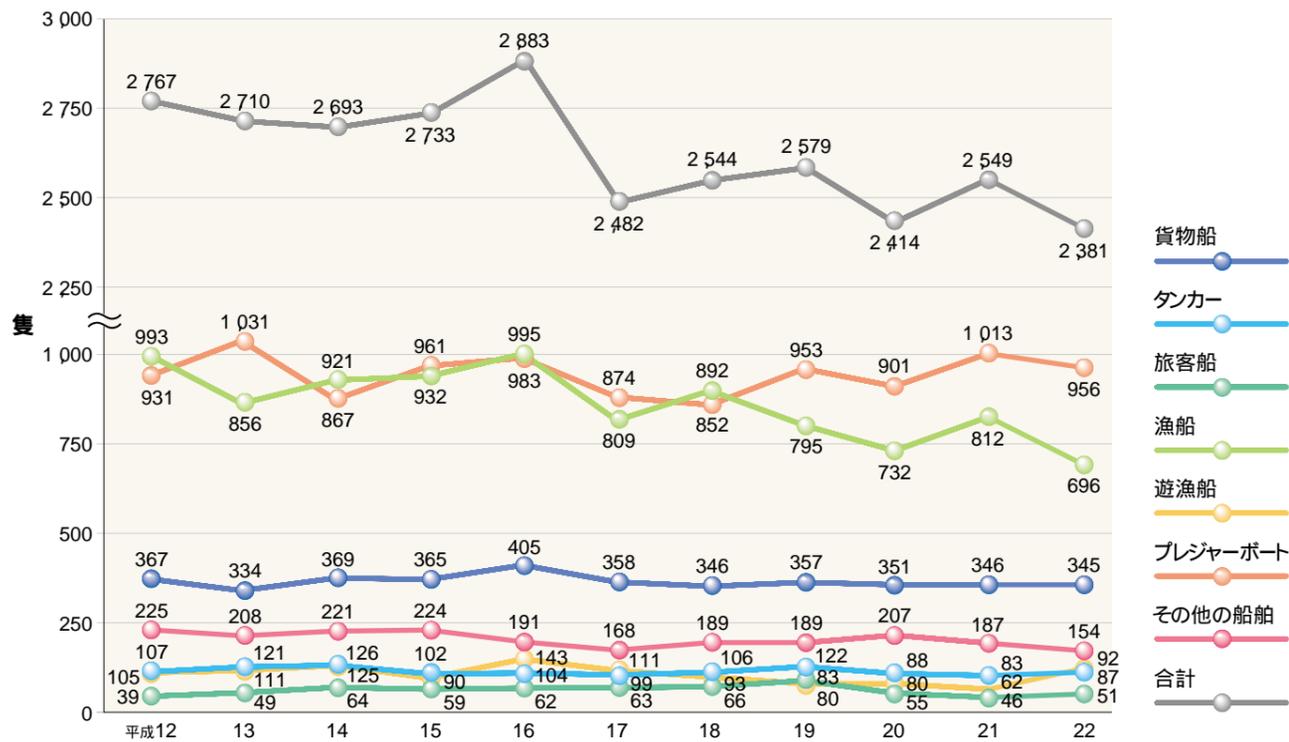
(特)日本ライフセービング協会

#### 【個人.....3】

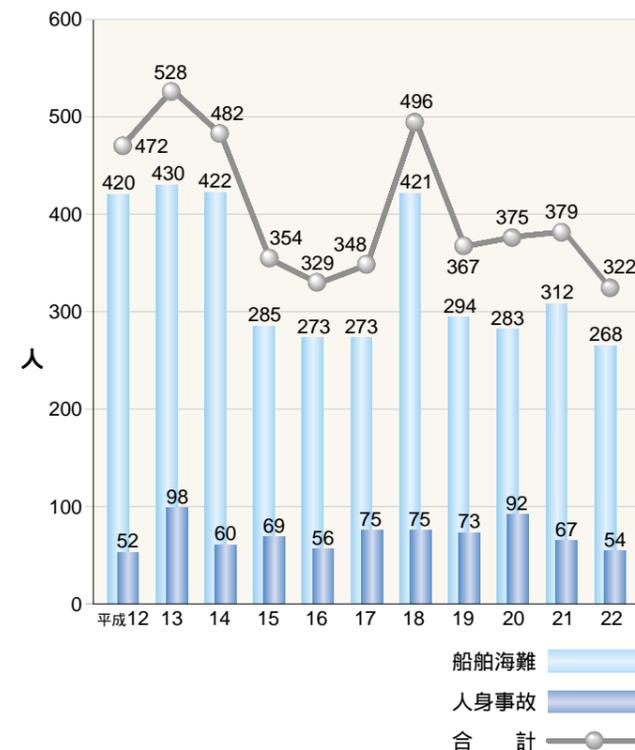
中由光徳、柳田雅行、吉田浩之

# 海難船舶及び人身事故の発生状況と海難救助の実績

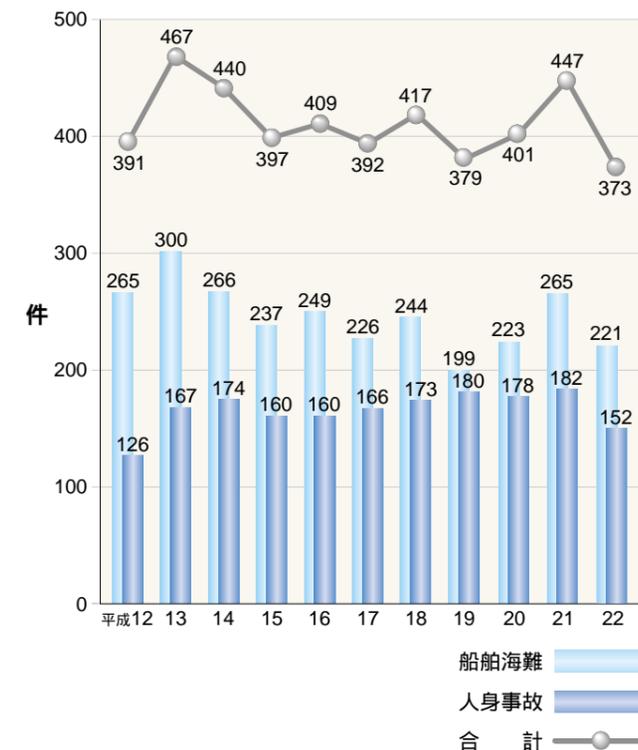
## 用途別海難船舶隻数の推移



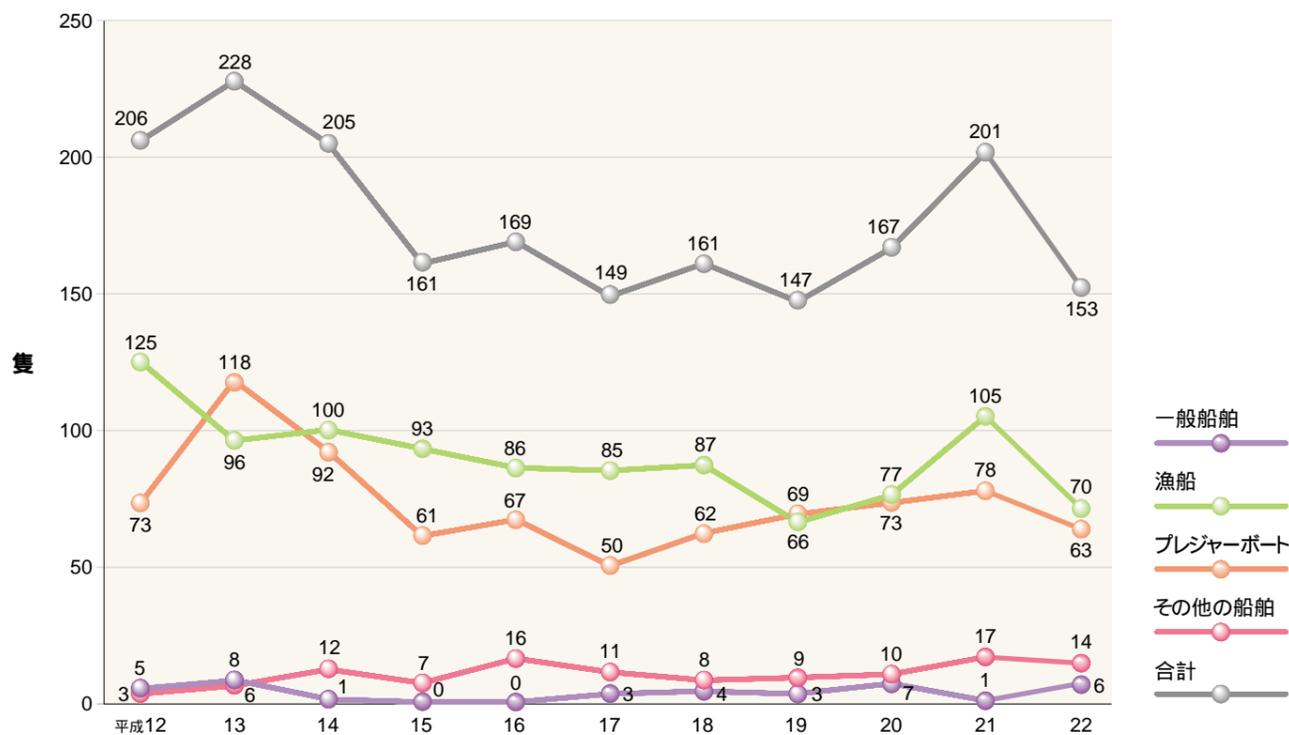
## 日本水難救済会海難救助人命数の推移



## 日本水難救済会出動件数の推移

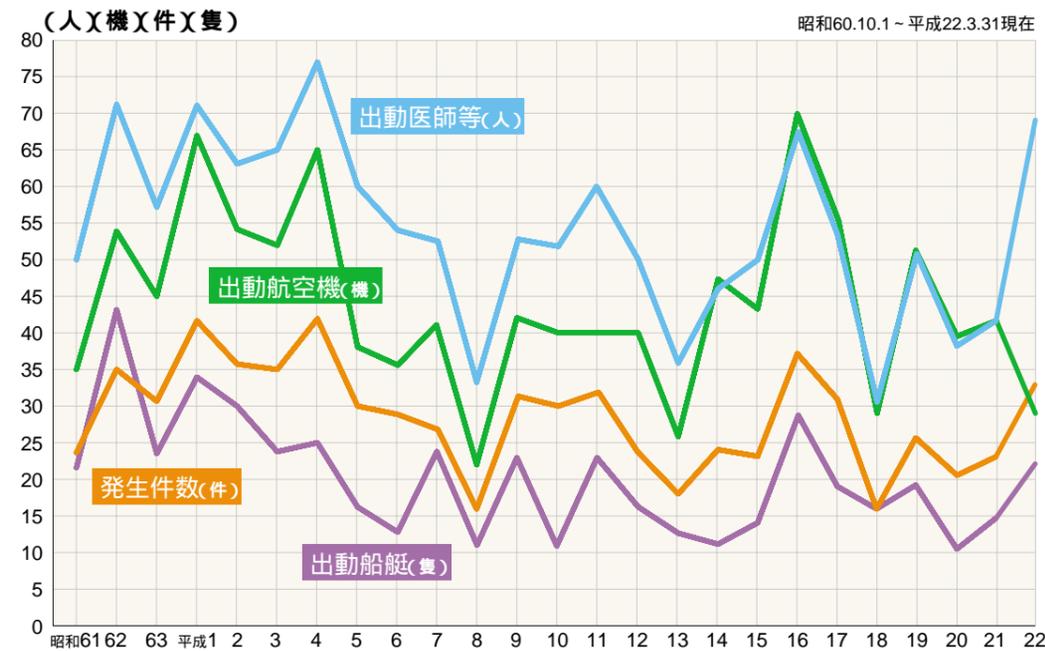


## 日本水難救済会海難救助隻数の推移



# 洋上救急の発生件数及び出動実績の推移

## 出動・救助件数の推移



## 出動実績

出動件数.....723件  
 傷病者.....753名  
 医師・看護師等.1,368名  
 巡視船艇.....516隻  
 海保航空機.....903機  
 特殊救難隊等.....456名  
 自衛隊機.....239機

